

これまでに出了された主な意見等～課題の整理に向けて～

(1) 奈良県教育の目的、理念、理論について

- ① 奈良県教育の目的は何か。
どのような人を育てることを目的とするのか。

【これまでに出了された主な意見等】

(○は第1回奈良県総合教育会議、※は第1回奈良県教育サミットで出了された主な意見等。)

- 教育から育人、どのように「ひと」を育てていくのか。
- 国家教育ではなく地域教育を。
- 知恵の托鉢をやってはどうか。
- 高い道徳性、責任感、行動力を備えた人材を育成する。
- 異文化を理解し、コミュニケーション能力を備えたグローバルな人材を育成する。
- 優れた論理力と発進力を備えた人材を育成する。
- ※ 県の教育の目的は「育人」、人を育てるということ。「育人」は、社会のための教育というフレーム化よりも、本人のため、本人の能力を伸ばす教育を奈良県教育では入れ込む方向。
- ※ 奈良県としてオリジナルな“教育訓”がほしい。
- ※ ふるさと、地域のよさを知っている子どもを育てたい。
- ※ 子どもだけでなく、父や母も含めた人間教育が大切。

- ② 奈良県ではどのような教師を育てるべきと考えるのか。
理想の教師を育てる条件は何か。

【これまでに出了された主な意見等】

(○は第1回奈良県総合教育会議、※は第1回奈良県教育サミットで出了された主な意見等。)

- 教員の研修体制の構築が必要。
- 教師の再研修を。マイスター制の導入はどうか。
- スキルアップに繋がる教員研修を。
- 情熱・ビジョン・人間的な魅力等のある教師がよい。
- よい先生の特性行動をモデル化して分析していく必要がある。
- 教員の評価方法を考える必要がある。
- ※ 「教員の育人」がパーソナルマネージメントの大きな課題である。
- ※ 先生方の指導力、熱意が大切。
- ※ 先生方の長所や、組織のチーム力を高めるマネジメントが必要。

- ③ 奈良県教育の方法は。
理想の人を育てる方法はどのようなものか。奈良県教育理論をつくるにはどうすればよいのか。

【これまでに出された主な意見等】

(○は第1回奈良県総合教育会議、※は第1回奈良県教育サミットで出された主な意見等。)

- エビデンスベーストによる資料に基づき、地域の実情に応じた奈良県教育理論を創造する必要がある。
- 日本人の倫理観教育をどうするのか。
- 家庭を取り込んでいくのが教育の原点。
- ※ 親や家庭教育における意識の高揚も図る必要がある。
- ※ 画一的な学力向上にとらわれず、地域の中で生き抜いていく力は何かという捉えも必要ではないか。
- ※ 教育こそが地方の創生につながるはず。
- ※ 県と市町村の連携を進めるには、事務局連携会議を開催し、情報交換することも大切。

- ④ 奈良県教育成果のとらえ方。教育成果はどのようにして測ることができるのか。
測ることのできる成果をどのようにとらえ、どのように活用するのか。

【これまでに出された主な意見等】

(○は第1回奈良県総合教育会議、※は第1回奈良県教育サミットで出された主な意見等。)

- エビデンスベーストの理論。地域での差異の分析を展開しながら理論の根っこを考えていく。
- ※ K P I (重要業績評価指標) といわれる成果目標をどのように県の教育大綱に入れていくのか検討を要する。絶対的な目標ができればよいのだが。

(2) 奈良県教育の構造・制度の課題をどうとらえるのか。

① 大学の役割について

総合大学の必要性、私立大学の役割、県立医大の役割、県立大学のあり方、奈良教育大学の役割、奈良女子大の役割は。

【これまでに出された主な意見等】

(○は第1回奈良県総合教育会議、※は第1回奈良県教育サミットで出された主な意見等。)

- 研究と大学との結びつきが大切。産学連携も含む。
- 県立医大には建学の精神がない。県には総合大学がない。
- 総合大学よりも、とがったものをつくるべき。
- ※ 奈良県にはまちづくり、都市計画等にかかわる総合大学が必要。

② 実学教育、就労教育のあり方

大学校の役割、専修学校の役割、その他の教育組織の意味

【これまでに出された主な意見等】

(第1回奈良県総合教育会議で出された主な意見等。)

- 奈良県独自資格の創造
- シェフ、オーベルジュの大学校を創っているが、連携の場がもっとできないものか。
- 観光産業、テニススクールなど、実学に近いところから大学校をつくってベンチマークを回していったらどうか。

③ 私学教育のとらえ方

【これまでに出された主な意見等】

(第1回奈良県総合教育会議で出された主な意見等。)

- 私学教育の役割
- 私学助成の在り方

④ 就学前教育のあり方
幼稚園、保育所のあり方。就学前教育のあり方。

【これまでに出された主な意見等】

(○は第1回奈良県総合教育会議、※は第1回奈良県教育サミットで出された主な意見等。)

- 神経系の発達は就学前。よって、この時期に力を入れる。
- 「奈良県こども子育て応援プラン」も参考に。
- 家庭教育のあり方
- 効果的な就学前教育の取組
- ※ 神経発達にも役に立つバイオリンを就学前に教えようかと思う。
- ※ スキャモン曲線にあるように、時期に応じた運動神経発達教育をフレーム化して行うかどうかは課題である。
- ※ 県の話から、就学前教育は重要であると認識した。
- ※ 小学校に入学するときには差がついている。就学前教育に一定の水準が必要ではないか。
- ※ 就学前教育においては、所得格差が負の連鎖、スパイラルになっており、食い止める必要がある。
- ※ 民間活力を使うべきという意見もあった。

⑤ 塾など、私的教育機関の役割をどう考えるのか。

【これまでに出された主な意見等】

(第1回奈良県総合教育会議で出された主な意見等。)

- 奈良県は通塾率が高いが、通塾率の低い秋田が学力が高いのはなぜか。
- 私的教育機関との連携も考えたらどうか。

(3) 奈良県教育の環境整備をどのように行うのか。

- ① 奈良県の大学、高等学校、中学校、小学校、幼稚園、保育所の今後の需要をどうとらえ、それに対応する教育サービスの提供をどのようにしていくのか。

【これまでに出された主な意見等】

(○は第1回奈良県総合教育会議、※は第1回奈良県教育サミットで出された主な意見等。)

- 学校規模の適正化
- ※ 過疎化による小中一貫校の設置
- ※ 行政区域を越えて統廃合を考えないといけない時期がくる。
- ※ 過疎化の地域では教員の確保も問題。

- ② それぞれの教育組織の教員の需要をどうとらえ、供給側をどのようにするのか。

【これまでに出された主な意見等】

(○は第1回奈良県総合教育会議、※は第1回奈良県教育サミットで出された主な意見等。)

- 教職員配置の適正化
- ※ 多様な生徒への対応に向けた専門教員の配置を。

- ③ よい教育はどのようにすればよいのか。

【これまでに出された主な意見等】

(第1回奈良県教育サミットで出された主な意見等。)

- ※ 家での親の対応が学力や規範意識に関係あるのではないか。

- ④ 教育現場の環境整備をどのように行っていくのか。

【これまでに出された主な意見等】

(第1回奈良県総合教育会議で出された主な意見等。)

- 耐震化
- 芝生化
- 教室環境の整備 (空調設備)

⑤ 給食体制をどのように進めるのか。

【これまでに出された主な意見等】

(○は第1回奈良県総合教育会議、※は第1回奈良県教育サミットで出された主な意見等。)

- 給食体制の充実
- 子どもの頃の栄養が老年の体力に影響するのか。給食を充実させることで要介護率が低くなればよい。
- ※ 就学前の栄養補給はとても大事。家庭の差を学校で補えるかどうか。
- ※ 食事に対する家庭の意識の高揚

⑥ 運動、部活の意味をどのようにとらえ、その環境整備はどのようにするのか。

【これまでに出された主な意見等】

(第1回奈良県総合教育会議で出された主な意見等。)

- 外部人材の活用

(4) 教育と社会との関係をどのようにとらえるのか。

① 教育に対する社会の要請は変化してきている。それをどのようにとらえればよいのか。

【これまでに出された主な意見等】

(第1回奈良県総合教育会議で出された主な意見等。)

- スキルアップや、新たな仕事に就くためのサポート体制が必要。奈良県独自の資格を創ってみてはどうか。
- 社会人教育の現状は。スキルを身に付けるために学びなおしたい場合の受け皿が必要ではないか。
- 「人材の再利用」が必要。世の中のサイクルは早く、社会に出た後再び仕入れて人材を生み出す。再利用の仕組みを考えていかないといけないのが大綱の大きな意味か。
- 新規高卒者がマイスターのような専門的な技術を身に付け、奈良で働けるような、企業との連携を考えてみてはどうか。

② 教育と社会との接続（就労のあっせん、教育の出口管理など）をどのようにすればよいのか。

【これまでに出された主な意見等】

(第1回奈良県総合教育会議で出された主な意見等。)

- 若者の県内企業への就職率の向上
- 企業と連携して学校を運営する。職能学校を民間でも協定でできるのでは。全てでなく、成績優秀者を何名かとるとよい。
- 「第8次奈良県職業能力開発計画」も参考に。

③ 貧困家庭の子どもの教育のあり方は。

【これまでに出された主な意見等】

(○は第1回奈良県総合教育会議、※は第1回奈良県教育サミットで出された主な意見等。)

- サポートの構築
- 「奈良県ひとり親家庭等の自立支援プラン」も参考に。
- 「奈良県子どもの貧困対策」の策定（H27年度中）
- ※ 貧困の格差が成績に大きく関連しているのではないか。

④ 障害者の教育はどうすればよいのか。

【これまでに出された主な意見等】

(第1回奈良県総合教育会議で出された主な意見等。)

- 障害者の就労支援
- インクルーシブ教育の推進

⑤ 保護観察者の就労、社会復帰はどのようにすればよいのか。

【これまでに出された主な意見等】

(第1回奈良県総合教育会議で出された主な意見等。)

- 保護観察者の就労・社会復帰

⑥ 人権教育の進め方は。

【これまでに出された主な意見等】

(第1回奈良県総合教育会議で出された主な意見等。)

- 人権教育の推進

⑦ 保護者と学校との望ましい関係は。

【これまでに出された主な意見等】

- ・ 特になし

(5) 教育現場の課題は何か。それとどう向かい合うのか。

① いじめ、校内暴力、ニート、引きもり

【これまでに出された主な意見等】

(第1回奈良県総合教育会議で出された主な意見等。)

- いじめ問題の解消
- 不登校児童生徒の減少
- ニートの自立支援

② 地域の教育力の差

【これまでに出された主な意見等】

(○は第1回奈良県総合教育会議、※は第1回奈良県教育サミットで出された主な意見等。)

- 地域教育力の向上
- ※ 生徒の能力が同じなら、地域の教育の差はまず教員にあるのではないか。
- ※ 過疎地域における教育

③ 低い規範意識、学習意欲、体力

【これまでに出された主な意見等】

(○は第1回奈良県総合教育会議、※は第1回奈良県教育サミットで出された主な意見等。)

- 関西が全体的に低いが奈良県は更に低い。学校の責任であると教育委員会も認識している。生まれつきの意欲にはそんなに差異はないはず。
- 体力はずいぶん上がってきた。先生が頑張ると上がるという証拠。
- 規範意識の醸成
- 学習意欲の向上
- ※ 学校行事に体力向上の取組を位置付ける。
- ※ 家族への意識付けも大切。
- ※ 家庭での手伝いが必要。
- ※ 体力向上には地域の力が必要。
- ※ 地域の得意な種目を活かすことも大切。
- ※ 運動が好きになる具体的な営み、工夫が必要。
- ※ 競争も必要ではないか。
- ※ スクールバスが体力向上にマイナスになっている面もある。
- ※ 社会体育と結びつけて、運動経験をしっかりさせる取組が大切。
- ※ 体力向上には専門家のアウトソーシングの活用を検討することも必要。
- ※ 道徳教育については、県民の意識改革、家庭の意識改革が必要。

④ 就学前教育

【これまでに出された主な意見等】

(第1回奈良県総合教育会議で出された主な意見等。)

- <前述参照>
所管を越えて、県が市町村のブリッジの役割をすることが必要。

⑤ スポーツ教育

【これまでに出された主な意見等】

(○は第1回奈良県総合教育会議、※は第1回奈良県教育サミットで出された主な意見等。)

- 子どもの体力向上
- 地域のスポーツ活動の充実
- スポーツと医療（健康）との関連性
- スポーツクラブの育成（アマ・プロ）
- 「スポーツ振興計画」も参考に。
- ※ 子どもの学外スポーツのあり方、総合スポーツのあり方を検討する必要がある。
- ※ スポーツイベントが、大人も含めた体力の向上に効果的か。
- ※ 過疎地域ではクラブ活動が非常にやりにくい状況になってきている。
- ※ 小規模校同士が集まってチーム出場を可能に。

⑥ シニアの教育

【これまでに出された主な意見等】

(○は第1回奈良県総合教育会議、※は第1回奈良県教育サミットで出された主な意見等。)

- 社会との関係では、定年退職後の社会貢献なども考える必要がある。
- ※ 大人の学びについて、シニアカレッジのような文化フォーラム的なものの展開が課題。

⑦ 就労した後の教育をどのように提案するのか。

【これまでに出された主な意見等】

(第1回奈良県総合教育会議で出された主な意見等。)

- スキルアップや新たな職に就くためのサポート体制の構築
- 高校に行かなかったルートからはずれた人の教育をどうするか。

⑧ 県外就労者に奈良の実情を知ってもらうには。

【これまでに出された主な意見等】

特になし

【追加課題】

① 郷土教育

【これまでに出された主な意見等】

(第1回奈良県総合教育会議で出された主な意見等。)

- 地域ならではの教育、奈良らしい教育を大綱に掲げたい。
- 古代からの日本人の特性（正直、勤勉など）を大切にし、地域や日本に誇りを持つことが奈良県らしさにつながるのではないか。

② 国際教育

【これまでに出された主な意見等】

(第1回奈良県総合教育会議で出された主な意見等。)

- グローバル人材、異文化理解ができる人材の育成を進めたい。